Shin ▪ Ozaki

尾崎 慎

第15回生

緊張感のある日

Profile

多摩美術大学大学院彫刻家修了。
神戸具象彫刻大賞展'87優秀賞、アートヒル三好ヶ丘'90彫刻フェスタ審査員奨励賞等受賞、スウェーデンにも長期滞在後、毎年、個展を開催。美術家連盟会員。

和

人は一人では生きていけない。友達であったり両親であったりそんなささえ合うことの大切さを表現した作品。

工房拝見

石彫のつどい（中津川市蛭川）での制作風景。ひるかわ石で新しい石の文化を創る。

16歳の時に「彫刻家」を決意

私は、両親が画家だという、幼い頃より美術に対して自然に触れる家庭に育った。星城高校1年生の時に父からヨーロッパの作家の作品集をもらい、それがこの分野へ進む引き金となり、彫刻家を目指す事となった。

石との対峙

絵画は、絵筆とキャンバスがあればいつでもできる。彫刻は、打てば跳ね返される石の抵抗感に打ち勝って自由に扱いたいと強く思い、やり直しがきかないということも私に大きな緊張感を与える。精神面も非常に大事で、心が負けていると石はとてつもなく硬く感じる。しかし、思うように扱えたときは、全身が感動に包まれる。

彫刻に「生命感」を見出す

ただ生きているだけで大変な世の中で、ゆとりを大切にしたい、人間の信条とか人間の絆とかを表現したい、その中でおこりうるものを彫刻で「生命感」として見出したい。

今の作風になったきっかけ

学生時代はデッサンをするとか基礎的な事ばかりに頼っていた。その反面、自分はこんなものじゃない、自分の中に内在するものが他にあるのではないかという思いがあった。卒業して、その瞬間は訪れた。私は非常にとまどいを感じたが、同時に心地よかった。これは何だろうと母に相談をした。すると意外にも「いいんじゃないの」と言われ、ここから性別・人種をこえた「人」の作品となった。

星城高校の後輩へ

目標は誠実に強い信念を持って行えばかなう。